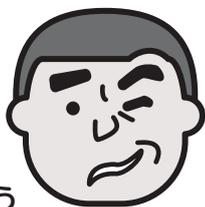


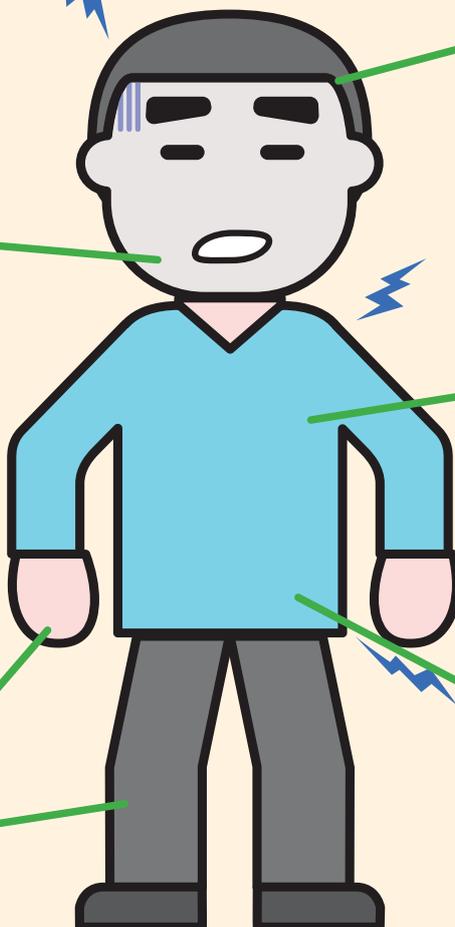
# 重大な病気やけがの可能性があります!

## 顔

- 顔半分が動きにくい、または、しびれる
- ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくく、うまく話せない
- 見える範囲が狭くなる
- 突然、周りが二重に見える
- 顔色が明らかに悪い



## おとな



## 頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 支えなしで立てないぐらい急にふらつく

## 胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2~3分続く
- 痛む場所が移動する

## 手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

## おなか

- 突然の激しい腹痛
- 激しい腹痛が持続する
- 血を吐く
- 便に血が混ざるまたは、真っ黒い便が出る

## 意識の障害

- 意識がない(返事がない) またはおかしい(もうろうとしている)
- ぐったりしている



## けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

## けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど



## 吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

## 飲み込み

- 物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい、意識がない

## 事故

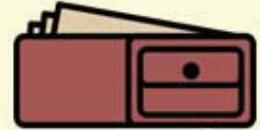
- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高いところから落ちた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合



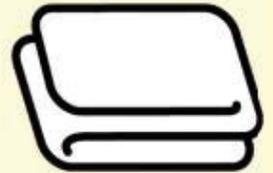
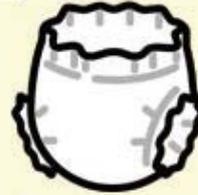
## 救急車が来るまでに、用意しておく便利なもの。

- 保険証や診察券
- お金
- 靴
- 普段飲んでいる薬  
(おくすり手帳)



### 乳幼児の場合はさらに

- 母子健康手帳
- 紙おむつ
- ほ乳瓶
- タオル

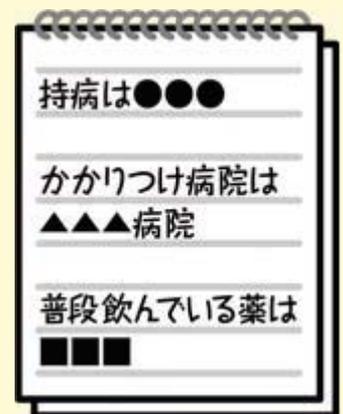


## 救急車が来たら、こんなことを伝えて下さい。

- 事故の状況や体調が悪くなってから救急隊が到着するまでの様子やその変化
- おこなった応急手当の内容
- 具合の悪い方の情報

持病、かかりつけの病院やクリニック、  
普段飲んでいる薬、医師の指示など

- 持病、かかりつけの病院やクリニックなどは、日頃からメモにまとめておくと便利です。



○本資料は、緊急度が高い(赤に該当)ことが予測され、すぐに救急車を呼んでほしい症状のうち、特に知ってほしい症状をまとめています。  
○ここに掲載がない症状等については、救急受診ガイド2014年版をご覧ください。  
○救急受診ガイド2014年版は左ページの2次元バーコードまたは、消防庁ホームページへアクセスしてください。  
○緊急度とは様々な症状等を赤、黄、緑に分類し、医療機関を受診するための手段と受診する目安を示したものです。

**赤** 『救急車を呼びましょう』

**黄** 『今すぐに医療機関を受診しましょう』

**緑** 『医療機関を受診しましょう』

救急車を呼ぶときは、**指令員の案内**にしたがってください。



救急車を呼ぶときは「**119番**」!!



119番通報したら、**こんなことを聞きます。**

住所

---

電話番号

---

目印になる建物

(近くの公共施設やお店の名前)

---

- 誰が、どうしたのか (病気、けが、交通事故など)
  - (具合が悪い方の) 年齢、性別
  - 一緒にいるか? (頼まれて通報しているか?)
  - 呼吸は楽にしているか? (普段どおりの呼吸か?)
  - 冷や汗をかいていないか?
  - 顔色は悪くないか?
  - 普通に話ができるか?
  - 症状を詳しく
- など



緊急連絡先

名前

連絡先

続柄

